

令和5年度 学校評価 自己評価書（前期）

1 学校の重点目標

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| ○ 子ども主体の活気のある学校   | ○ 規律を重んじ心豊かな子供を育てる学校 |
| ○ 確かな学力を身に着けさせる学校 | ○ 学習環境が整備された学校整備     |
| ○ 地域と連携し、共に成長する学校 | ○ 組織力を生かし校務を遂行する学校   |

2 課題と改善策

|      | 評価項目                                    | 職員  | 評価結果と改善方策（○成果 △課題 →方策）   |
|------|---|-----|--|
| 重点項目 | 1 生涯にわたって生きて働く学力の育成                     | 2.7 | ○「頑張る5」を教職員や児童に引き続き示し、実践を積み重ねることができた。<br>△ この3年間で実施できなかった行事等の進め方がうまく引き継がれていない状況がある。<br>→ 体験活動を通し社会性の基礎を向上させることができる。地域と連携した活動に取り組んでいく。              |
|      | 2 豊かな心、自信と自己肯定感の醸成                      | 2.9 |  |
|      | 3 たくましい体、安全・安心な開かれた学校づくり                | 3.0 |  |
| 生徒指導 | 1 開発的生徒指導の推進                            | 3.1 | ○ 職員と開発的生徒指導の共通理解を図り、実践を積み重ねることができた。<br>△ 解決していない友達関係のトラブルが元になり問題となった事案が多く見られた。<br>→ いじめ問題の積極的認知に努め、一つ一つ組織的な対応で解消につなげることができるようにする。                 |
|      | 2 特別支援教育や人権教育の視点を取り入れた生徒指導の推進           | 3.0 |  |
|      | 3 いじめ問題の適切な把握と解消に向けた取組、いじめを起こさない先手指導の推進 | 3.3 |  |
| 学力向上 | 1 指導内容の明確化                              | 2.5 | ○ 身に付けるべき力を明確にした授業、ゴールを明確にした授業の意識化を図ることができた。<br>△ 学力の二極化や思考・表現力の不足、計画を立て予習・復習する児童の割合が低い等の課題がある。<br>→ 学びタイムを計画的に行うとともに、自分の学習状況に合わせ、課題を解決していく態度を育てる。 |
|      | 2 取り立て指導の推進と充実                          | 3.0 |  |
|      | 3 家庭学習の充実                               | 2.7 |  |
| 心の教育 | 1 特別の教科「道徳」と読書活動の充実                     | 3.0 | ○ 月間目標を意識して本を借りている児童が多い。<br>△ 人権の花運動への具体的な取組が不十分である。<br>→ 人権意識を踏まえた授業実践や、掲示物等を工夫し、日常的な声かけを意識して行うようにする。   |
|      | 2 人権教育の充実                               | 2.9 |  |
| 体力向上 | 1 実態把握と教科体育の充実                          | 2.2 | △ 体力テスト等を活用した実態把握をもとに、日常的な運動量の向上が課題である。<br>→ 実態に合わせた教科体育の実施と、補教運動の導入を行う。   |
|      | 2 けがや病気の予防と治療の促進                        | 2.7 |  |
| 教育環境 | 1 校内設営の充実                               | 2.6 | ○ 目的に沿った動的設営の実施や、空き教室等の効果的活用に向けた、環境整備を行うことができた。<br>△ サービス違反2件、超過勤務時間の増加が見られた。<br>→ 再発防止に努める。また、退庁時刻を意識した業務改善を進める。                                  |
|      | 2 校内美化の推進                               | 2.9 |  |
|      | 3 サービス規律の厳正確保と業務改善の推進                   | 3.0 |  |

3 次学期（年度）に向けての取組

- 身に付けるべき力を明確にした授業の実践や、学校教育目標の具現化に向けた取組を行う。
- 学力向上に向け、児童一人一人の実態把握、授業の工夫、適切な評価を行い、生きて働く学力の育成に努める。
- 「頑張る5」のうち、特に「言葉とあいさつ、人の話をしっかり聞く、手を汚す仕事を懸命に頑張る」という3つの項目について重点的に働きかけを行う。
- 基本的な生活習慣の育成（家庭学習・インターネット利用を含む）を目指し、PTAとの連携を図りながら保護者・児童の実践力を高める啓発を行う。